

日本農業気象学会 2012年度第3回理事会議事録

日時：9月12日(水) 17:00～19:00

会場：宇都宮大学峰キャンパス（栃木県宇都宮市峰町350）（農学部棟-南棟）2階

出席：岡田益己、小林和彦、菅野洋光、廣田知良、富士原和宏、町村 尚、皆巳幸也、
林真紀夫、脇山恭行、横山 仁、吉本真由美、杜 明遠、石郷岡康史、黒瀬義孝、
北野雅治、小沢 聖

欠席：大政謙次、荊木康臣、佐々木華織、松島 大、中屋 耕、菅谷 博、青木正敏、
松岡延浩

【議事録・議事要旨確認】

1. 2012年度第2回理事会議事録報告（資料1）

菅野理事より報告され、承認された。

【報告・連絡事項】

1. 編集委員会報告（資料2）

9月1日に編集委員会が行われた旨、黒瀬理事から報告された。Vol.69 No.2は部会特集号を予定している。

掲載料無料にしたことによって、北野編集委員長より掲載論文のストックが増えてきたとの補足説明があった。

★学生対象の論文の投稿について皆巳理事より質問がされ、当該論文は2報あり、期限内に投稿されたため通常投稿として取り扱っていると黒瀬理事より返答がなされた。

★ISAM2013ホームページへの掲載は来週を予定している。

ISAMは掲載料無料にし、非会員でもISAMに投稿していれば、Journal of Agricultural Meteorologyに投稿可、掲載料を無料とするとの報告がされた。

ISAM2011の最終受付は2011年5月11日であったが、ISAM2012は2013年3月31日までとし、ISAM2013の投稿は、大会終了後から2014年2月28日までとすることに決まった。

（編集委員会資料1）

★「生物と気象」の掲載料について：編集委員会より「農業気象」の掲載料は無料になったが、「生物と気象」はどうするのか、確認された。

編集委員会より、シルバー会員の掲載料値下げ案が出された。

「生物と気象」掲載数は、今年度は現時点で8報との報告があった。

掲載料について、公費支払、個人負担支払などの確認方法について、議論がなされた。

★研究論文、総説、資料の投稿料は10,000円、短報は5000円とすることに決定した。ただし、会員外は現状のままとする。個人負担での支払者については、編集委員会で検討後、12月の理事会で最終案を出すこととなった。

シルバー特典については、今回は保留とした。

(編集委員会資料2)

受賞者のリストは、すでに学会 HP から確認できるが、「生物と気象」からも閲覧できるようにして欲しいとの申し出があり、受賞者の名前と所属先と賛助会員一覧を「生物と気象」の HP ページからも閲覧可能とすることになった。

(編集委員会資料3)

A. 投稿規程の改訂案が提出され、承認された。

Journal of Agricultural Meteorology の掲載料については、前回の理事会で Vol.68 No.3 より無料とすることに決定している。

B. カラーページの取り扱いは、編集委員会報告の通りとする。

投稿規程：「Journal of Agricultural Meteorology」の印刷バージョンはカラーで提出しても基本はグレースケールとし、WEB バージョンはカラーにする。但し、印刷もカラーを希望した場合は、実費を請求することになったと報告された。

超過頁料金を 7,500 円に変更することで承認された。

★黒瀬理事より、数式統一のフォーマットについては、現在松島理事が作業中である旨報告された。

★北野編集委員長より、ISI 登録についても松島理事が行っているとの報告がされた。投稿数を増やしてほしいとの依頼も出された。

★町村理事より、Journal of Agricultural Meteorology の投稿規定で、カラー頁についての記載が必要かとの質問があり、表記方法を検討することになった。

2. 日本農業工学会 (資料3)

横山理事より、奥島会員が出席した日本農業工学会理事会について報告があった。

3. 役員選挙 (資料4)

吉本理事より、役員選挙についての経過ならびに関東支部の役員選出時の混乱とその対処 (下記3点) について報告された。

① 終身会費を納めた正会員の氏名が被選挙者リストから漏れていたため、修正したリストで選挙が再実施された。学会事務取扱所提供の名簿に、会則上存在しない終身会員という会員種別が存在したことが原因であるため、今後は提供する名簿の会員種別を会則と一致させる。すなわち、「終身会員」→「正会員」(終身会費納入)。「学生会員」、「ポスドク会員」→「学生・ポスドク会員」。

② 会則上選挙権を有さない名誉会員に投票用紙を送付した件について、選挙管理委員会としては、「会則に則ることを勧めるが、支部役員選出の段階のため、役員選出規程 4. の2) に則り最終判断は支部に任せる」との見解を返答した。

③ 会員名簿が廃止されて初の選挙であったため混乱が生じた。今後、冊子体の名簿の代わりになるものを選挙用に限り準備して送付しても良いのではないかと提案があった。

今回の問題点は、次回の選挙までに正すものとする。

★審議事項とする

支部役員の選挙・被選挙権など選出過程について役員選出規程内に矛盾があるのが実情である。会則や各種規程間の矛盾点の洗い出しを、横山理事、富士原理事、林理事を中心に行うこととなった。庶務理事経験者の宮田会員などにも協力をお願いする。名誉会員に学会賞受賞者の推薦権がないのはおかしいのではないかとの意見が、岡田会長より出された。

4. 平成 25 年度日本農学賞受賞候補者の推薦依頼について（資料 5）

横山理事より日本農学会賞候補者推薦について報告された。HP 上で公開し、公募となるが、個別の推薦者がいる場合は、10 月 27 日頃までに横山理事まで連絡をする旨報告された。

5. 会費、ATM 振込、クレジットカード決済について（別紙）

クレジットカード契約について、杜理事より経過報告がされた。

UC カードから利用率の 3.9%の提示があり、10 月から銀聯カードも利用可能との報告がされた。モバイル端末機での支払が可能で、海外からの大会参加者が当日支払いをすることが考えられる。

前登録料金の場合は、カードがないためオーソリセンターへの電話問合せとなる。

現在、海外からの参加者は前料金で徴収しているが、海外会員は前料金ではなく、当日大会受付ではどうか？との提案が杜理事よりされた。

大会参加費の銀行振込の場合海外からは、手数料が 4~5,000 円かかる。

Web に申込書を PDF でアップし、ダウンロードしてもらい、FAX で送ってもらうという形で良いのではないかとの意見が出された。

★UC カード、JCB カードとの契約を進めることになった。

6. 合同大会の分担金について

杜理事より、25 万円を支払ったとの報告がされた。

余剰金が生じた場合は、実行委員会により返金されるとの補足説明が岡田会長よりされた。

7. 2013 年度北陸大会の進捗状況（資料 6）

皆巳理事より実行委員会が先週行われたことを踏まえて進捗状況が報告された。

大会スケジュールに時間を付加したので、確認をお願いしたい。

前回の反省で、ポスター発表についての 1 分間プレゼンや優秀ポスター賞を早めに周知するようにとの意見があったので、HP 上の告知に記載した。

シャトルバスを運行、その他の交通手段もあるが、本数が少ないこともあり HP 等で案内を予定している。

会場は、発表会場 3 室（大 200 名程度 2 室、中 100 名程度 1 室）の他に会議用 3 室、展示用 1 室、休憩用 2 室を確保したとの報告がされた。

★メール広報に皆巳理事の投稿権限を許可する。ただし、総務理事に確認した後に投稿することとなった。

★ISAM について

プログラム委員 2 名 小沢理事と廣田理事にお願いすることとなった。
ISAM2013 の Full paper の締め切りは、2014 年の 2 月 28 日である。

★会場の確保に関連して

総会の時間は、受賞者の数で、時間帯が変わってくるだろうとの意見があった。

クレジットカードでの支払は、1 月 31 日迄には間に合わせる旨杜理事に依頼された。
優秀ポスター賞の表彰内規を大阪大会で作成しているので、それに併せて行う。

8. クロアチア農業気象学会の設立について（資料 7）

小林副会長より報告が行われた。

9. JA さがみ農業協同組合連合会よりの講演依頼について

小沢理事より 7 月 30 日に清野先生の本などをまとめ「養液動向・ストレスを減らす栽培方法について」講演を行ったとの報告がなされた。

10. HP 掲載の会則更新について（資料 8）

吉本理事より、HP の画面の会則が最新だったが、ダウンロード用 PDF 版が 2 年前のままであったため、8 月 11 日に訂正した PDF 版をアップしたとの報告がなされた。
学会賞規程内に、受賞候補者人数について文言の不備が見つかったため修正した。

11. 論文賞の賞牌変更について

菅谷理事から連絡があり、現金にするのか賞牌にするのかについて決まっていなかったのではとの問合せがあったと、菅野理事より報告があった。
岡田会長より、現金の場合は、大学などでは問題があると説明がなされ、論文賞の賞牌は、図書カード（1 万円相当）とすることに決まった。
論文賞の賞状を英文とすることについては、菅谷理事に原文を依頼することとなった。

12. 協賛・後援について（資料 9）

横山理事より、「第 2 2 回風工学シンポジウム」の協賛を行ったとの報告がなされた。

【審議事項】

1. 学会賞、奨励賞（資料 10）（菅野）

黒瀬理事から学会賞の論文は「生物と気象」も対象となるのではないかとこの質問が出された。

富士原理事より、「本学会誌」は、「農業気象」を指すものではないかとこの質問がされたが、岡田会長より、現在は英語論文が「農業気象」に、和論文が「生物と気象」に掲載されているとの経緯が説明された。さらに英文誌と和文誌についての議論がされ、「生物と気象」を学会賞の対象とすることと決まった。

★対象年度の区切りについて、審議がされ、今年の場合は、現状のままとする。

その後、学会の年度は、1月～12月とし、一年前の論文を対象とする。したがって、2013年度は2012年6月号（2号）～12月号（4号）とし、2014年度からは前年度の1月から12月とすることに決定した。

「生物と気象」の2013年度の対象は、11巻（2011年）分とすることに決定した。

2. 名誉会員選出について（資料1 1）

菅野理事より、名誉会員の選出基準について提案がされた。

今年度は、70歳以上の2名を名誉会員として、中山敬一会員、鈴木義則会員を推薦することに決まった。

★岡田会長より、「会長経験者ならびに当学会に多大なる貢献をされた方で、当学会員で70歳以上とする。」の選考案が出され、今後の申し送り事項とし、次年度以降理事会で審議し推薦することに決まった。

3. 国際地学オリンピック高校生派遣に関する支援について（資料1 2）

横山理事より協賛依頼があったとの報告が行われ、今回の協賛は見送ることになった。

4. 出前講座の窓口について

以前は大原理事が担当されていたが、すでに退職されているので、担当窓口を変えた方が良いとの意見が出された。学会HPで出前講座について掲載することになっていたが、現在作成中であるとの報告が皆巳理事からあった。岡田会長が、来年3月以降に窓口を担当する予定となった。

5. 支部の合併について

継続して東海の合併先を検討する。北陸、東北も会員が少なくなっていると岡田会長より説明された。一方では、北海道支部は、今年60周年となって盛り上がっているとの話もあった。岡田会長より、以前は信州支部（長野、山梨）があったが、関東支部に統合した経緯が話された。関東と東海、近畿と北陸が一緒になると行き来しやすいのではないかと、また、三重・岐阜は、関西に近いとの意見も出され、12月に議論することになった。関東、東海の支部会の時に議論してもらい、12月の理事会で発表してもらい審議する。

6. 次期合同大会について（岡田会長）

次期合同大会についてフェデレーション会議で決定するが、3年後に盛岡になる予定との説明がされた。盛岡の有志だけでやることはできないので、運営責任学会を農業気象学会が担当ということになるが良いか？との意見が出された。

現在のフェデレーション代表を干場氏が行っているのは、合同大会の責任学会が行っているのかを確認した上で、盛岡では、フェデレーションの代表も農業気象が行い、岡田会長が退任後は次期会長も継続して行うことでよいかとの提案がされ、承認された。

7. JpGU ジャーナルについて（資料別紙）

石郷岡理事から報告が行われた。

地球惑星連合で科研費の申請を準備中で、申請がおりたら具体的な作業が始まる予定である。各学会のジャーナルと競合しないように、学会等の共同発行の形をとり、英文誌の発行を 1 学会では、負担が重いとを感じる学会が共同でジャーナルを発行するものである。編集運営会議に各学会より、原則 1 名、大きな学会は 2 名の依頼があり、当学会は 2 名との説明がされた。

ジャーナルの詳細情報「Q&A」は資料の URL (地球惑星連合の HP) にて確認できる。回答が求められていないので、日本農業気象学会としては即答しないこととし、必要であれば 12 月に考えることとする。委員の依頼が再度あった場合は、編集委員会に相談することになった。

8. 会則について

横山理事より会則について、理事の皆さんに矛盾点などがあれば確認してもらい、次回 12 月にチェックして赤字を入れるなどして、確認をしてはどうかとの意見が出された。庶務理事、総務理事、会計理事など 2 代前までに横山理事よりメールにて配信してもらい、回答を 12 月に確認する。

次回の理事会は、12月7日(金)の予定である。